

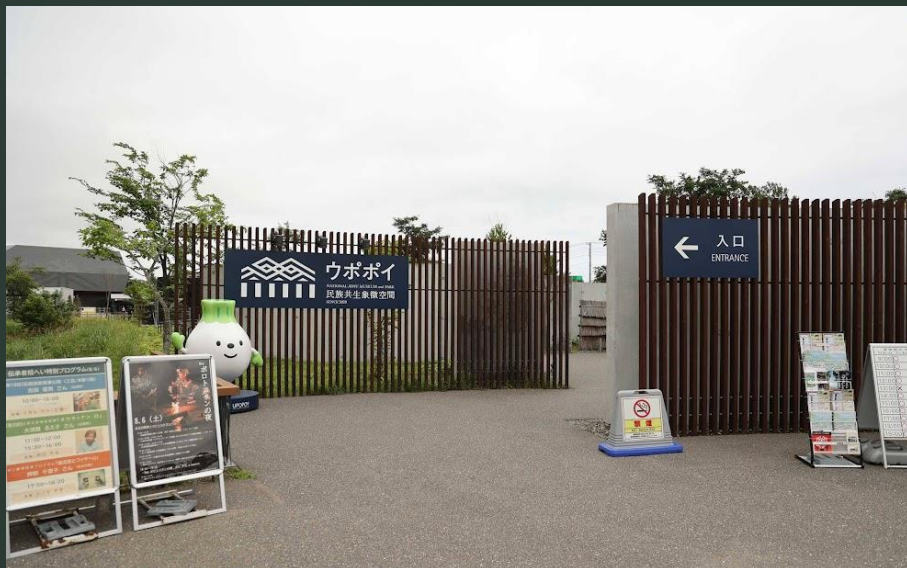
2022都市調査会・国内視察〈道南編〉

アイヌとマオリ

都市調査会（GV5期生） 谷井千絵



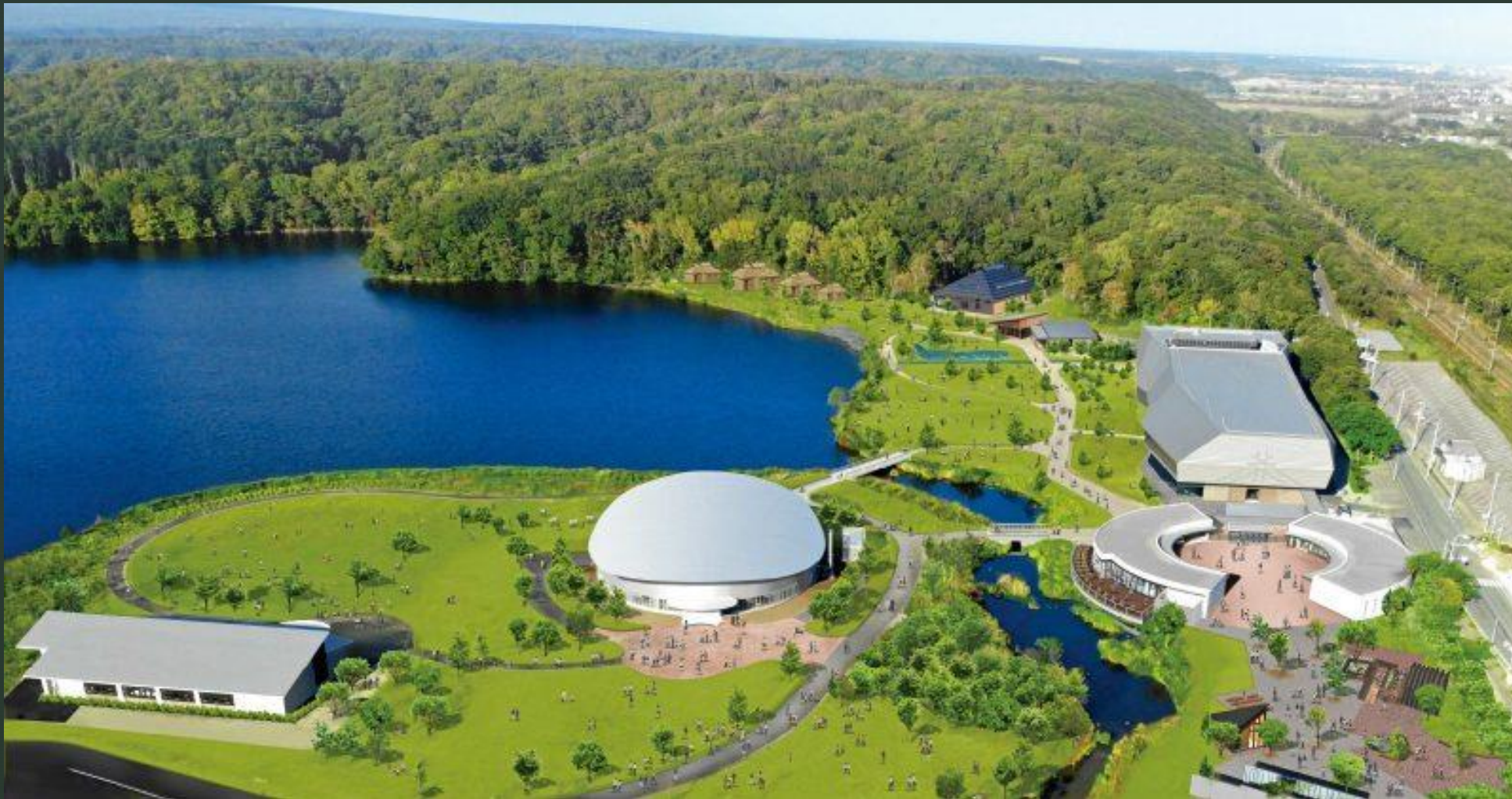
ウポポイ(民族共生象徴空間) 国立アイヌ民族博物館を訪ねて



↑ 屋外のチキサニ広場での
文化解説「ウパシクマ」

← 国立アイヌ民族博物館

ウポポイ全貌 ポロト湖の湖畔、広大な施設



印象に残ったもの・・・ アイヌの文様
 アイヌの道具や持ち物のほとんどに彫られ、刺繍される文様。



アイヌの文様

基本の文様にはモレウノカ(うずまきの形。「静かに曲がる」の意味)、アイウシノカ(トゲのある形)、シクノカ(目の形)などがあり、それらの組み合わせで複雑かつグラフィカルなデザインをつくり出していく。組み合わせ方は北海道内でも地域によって異なり、また、つくり手によっても違いがある。

文様の多彩なデザインは、かつて木彫は男性、刺繍は女性の手仕事として受け継がれてきた中で生まれた。地域によって解釈は異なるが、文様は魔除けの意味を持つと言われ、着物の襟(えり)や袖(そで)など開いた部分に刺繍される。つくり手は使う人のことを思い、カムイへの祈りを込めてデザインするため、まったく同じものはひとつもない。

アイヌ文様はたんなる装飾ではなく、たったひとつの心の表現である。

そういえば・・・
こんなものもあったよね・・・
展示を見ながら、思い出しました・・・



ハワイアンキルト

ハワイ独自の大胆で鮮やかな色彩が特徴



・19世紀、本土からハワイに来た宣教師の妻たちによって当時アメリカで人気のあったパッチワークキルトを教えたのが始まりというのが一つの説。諸説ある。

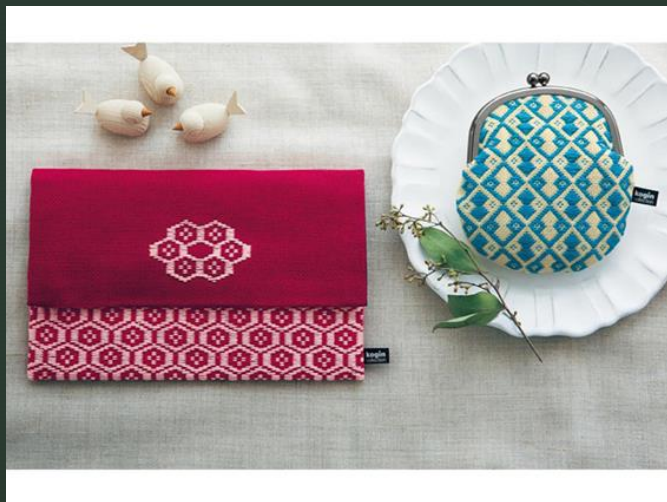
・ハワイのキルターたちに最も好んで語り継がれている説は、木陰に干してあった白いシーツの上に、大きな影を落として揺れ動くレフアの木の葉の模様がインスピレーションとなってハワイアンキルトが生まれたというもの。

・大きな布を4枚または8枚に折り畳んで、切り抜き、左右対称のデザインをアップリケする手法

・相手を思い、心を込めて一針一針手縫いする。

津軽・こぎん刺し

- ・美意識が生んだ模様
- ・明治に入ると木綿の着用が解禁になり、木綿糸が手に入りやすくなり、藍色の麻布に白い木綿糸で刺されるようになっていく。
- ・農家の女達的美意識と工夫で多くの模様が生み出され、他の刺し手と美しさを競い合うようになった。基本になる模様は30余。
- ・娘達は幼少から刺す練習をし、晴れ着用として嫁入り支度に欠かせないものとなり、明治20年頃には手の込んだこぎん刺し着物が多く刺されている。



アオテアロア・マオリ文化



↑ マオリのポイ・ダンスはひもの付いたボールをうまくコントロールしながら踊る伝統芸能



マオリ カービング(木彫り) →



ニュージーランドの生活の要素に欠かせない マオリ文化

- 9世紀から10世紀にかけてニュージーランドに船でやってきて移住したポリネシア人開拓者の一派をマオリ族と呼び、ニュージーランドの先住民としてヨーロッパ人の開拓が始まるまで独自の生活を続けてきた。
- 1842年2月6日に締結されたワイタングィ条約で、マオリ族とイギリス人の間での武力衝突は解決するはずだったが、英語とマオリ語との訳や解釈の違いからその後も、30年近く争いが続いた。1975年の再審議までイギリス側が放置したままにしておいたことで、現在に至るまで深い溝が残っている。
- 現在、ニュージーランドの7人に1人はマオリの血を引いており、マオリの歴史、言語そして伝統はニュージーランドのアイデンティティの中心となっている。

日常に見られるマオリ文化

- ヨーロッパ系入植者(パケハ)の文化が支配的となり、マオリはパケハの文化に順応していくと予想されていたが、1980年代になってマオリ文化の復興がスタート。それ以来、新たに二文化併存に重点を置くこととなった。
- 公用語としてテ・レオ・マオリ(マオリ語)が話されており、地名の多くがマオリ語に由来している。
- 日々の生活ではティカンガと呼ばれるマオリの慣習、マナーも大切にされている。「マナアキタンガ」は、キーウィが誇りに思っているお客様を歓迎する、おもてなしの精神。
- カイティアキタンガは守護、保全といったマオリが伝統的に自然に対して感じてきた理念であり、多くのニュージーランド人が共有する環境保護の中核をなす理念。
- マオリの伝統芸能カパ・ハカはハーモニーを奏でる歌とリズムカルな踊りを組み合わせた迫力あるパフォーマンス。ハカは現代マオリの暮らしの中にも息づいており、誕生日や結婚式などのお祝い事や客人を歓迎する儀式など、社会的に重要な場面で敬意をもって披露される。
- ニュージーランドの文化にマオリの文化や風習はうまく共存できているところも多いが、急激なグローバル化に伴う人材や学歴の差についていけない一部のマオリ族の失業率や犯罪率の上昇が社会問題となっている。

アイヌとマオリの交流

「アイヌ・マオリ交流プロジェクト」から

- 2013年の第一回研修では、アイヌを中心に計15名が、1ヶ月に渡りニュージーランド北島各地を訪れ、歴史や文化・ビジネスなど多様な分野でのマオリの取り組みを学ぶ。「マオリにとっていいことは、アイヌにとってもいいことだ。アイヌにとっていいことは、日本、世界にとっていいことだ。」
- ニュージーランドの先住民族マオリはマオリ語をはじめ失ったものを回復するために立ち上がり、見事な文化復興を遂げた。
- 「40年前にはマオリは一つになれなかったが、いまは団結して立ち上がることができるようになった。きっとアイヌもそうになれる。私たちが持っている経験・知識はすべて皆さんと分かち合いたい。」
- 2017年には、クラウドファンディングで資金を募り、2018年ニュージーランドへの第二会研修団派遣を目指す。(その後の情報は得られず、不明)

北海道とニュージーランドの交流 「北海道と在日ニュージーランド大使館との パートナーシップに関する覚書」を更新



・令和4年(2022年)4月22日、来日中のジャシンダ・アーダーン首相の立ち会いのもと、5年前に締結した「北海道と在日ニュージーランド大使館とのパートナーシップに関する覚書」を更新。

・酪農や畜産、アイヌ民族とニュージーランドの先住民族マオリ文化、ラグビーなどの分野で交流を進めるためのパートナーシップ。

思い出いろいろ...



おまけ・室蘭夜景の今！

- 悪天候で中止となったナイトクルーズ。寂しい夜の街、ホテル周辺には人影もなく。
- 【2019.1.29 西日本新聞記事】北海道室蘭市の観光資源となっている工場夜景で、目玉とされるJXTGエネルギー室蘭製造所の保安灯約1万個のうち約5千個が8月ごろ点灯を終えることが29日分かった。高さ約180メートルの煙突のライトアップは続ける。製造所は赤字に伴い4月から物流拠点となる。市はこれまで通りの点灯を求めたが、JXTGは管理が難しいとして約半数の消灯を決めた。物流拠点化により稼働停止する設備の区画を消灯する。室蘭市の青山剛市長は「残念に思う部分もあるが、引き続き夜景観光に取り組んでいきたい」とコメントした。
- そして、3年が経ち・・・令和2年3月策定「室蘭市観光振興計画ー訪れる人だけが出会える おっと！室蘭ー」の基本理念は、「稼げる観光」

地球岬周辺エリア 移動手段の改善、アクティビティサービスの充実などを図る

図表18. 地球岬展望台周辺の将来イメージ





視察ではお世話になり、
ありがとうございました。

参考・引用ウェブサイト等(画像データ含む)

- ◆平取町 二風谷アイヌクラフト
- ◆国立アイヌ民族博物館
- ◆アイヌ文様フリー素材 モレウ

本発表資料作成にあたり、フリー素材を使用させていただきました。

- ◆Lighthouse Hawaii
- ◆弘前こぎん研究所・公式サイト、Kogin.net
- ◆READYFOR アイヌ・マオリ交流プロジェクト
- ◆ニュージーランド政府観光局運営 newzealand.com
- ◆室蘭市観光振興計画
- ◆視察団メンバー撮影画像データ

ほかネット上の情報を引用、参考にさせていただきました。